



### 《現状把握》

国語・算数の学習状況であるが、知識・活用ともに全国平均を上回っている。しかし、学習への関心や規範意識、学習習慣、生活習慣、自尊感情などについては更に育てていく必要がある。

国語では読む力が高く、書く力が全国平均並みであった。話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿った質問を考える力も十分でない。

算数では、基礎的な知識や技能は全国平均よりも高い水準で身につけていた。一方で数学的な考え方にかけあつた問題や、記述式の問題など、段階を踏む必要があつたり解答に手間がかかつたりする問題での正答率は全国平均を下回った。

### 《授業改善のポイント》

基礎的・基本的な内容の習熟を徹底させるとともに、問題解決的な学習を一層充実させ、知識を活用する力、説明する力を育む。

国語、算数ともに書く力、説明する力に課題があるため、どの教科でも考えたことをまとめて書いたり、グループ内で質問し、話し合ったりする活動を充実させることで思考力や表現力を育てていく。自力解決を要する場面を多く取り入れ、知識や既習事項を活用させる授業展開を行うことで、児童の学習への興味関心を高めていく。

規範意識を高めることを第一の課題とし、学校や学級のルールを守る指導を貫徹するとともに、道徳や学活の時間を中心にルールを守りマナーを向上させる授業を推進する。また、一人一人を大切に学級経営や誉める・認めることを繰り返すことで自己肯定感を醸成していく。

以上のことを、実効性のあるPDCACAサイクルを確立し、意図的・計画的な授業・指導を行っていく。

### 《チャートの特徴》

学力調査においては、国語A《知識》、国語B《活用》、算数《知識》、算数《活用》の4ついずれにおいても全国平均をやや上回ることができた。しかし、学習への関心は、全国平均と同等か下回る結果となった。学習習慣も全国平均を下回っている。96.8%の児童が宿題はしているが、予習復習をしている児童は37.5%にとどまっている。

よりよく生きるための基盤となる規範意識、自尊感情、生活習慣などの項目において全国の平均を下回っている。特に規範意識については、学校のきまりを守っているの質問項目が全国と比べて一番開きが大きく、16.5%も下回っている。

### 《家庭・地域への働きかけ》

基本的な生活習慣の徹底や生活時間の見直しを家庭に呼びかける。同時に、集団の一員として、きまりを守ることが社会性・規範意識（特に挨拶・丁寧な言葉遣い）の育成につながることを周知していく。また、誉めて認める丁寧な子供との関わりの大切さも啓発していく。

基礎的・基本的な内容に加え、学習状況に応じた問題解決的な課題も用意し、主体的に家庭学習にも取り組めるようにする。